与謝野寛 晶子 書簡集成

全四巻

編者 逸見久美

日記の存在しない
与謝野夫妻の日常をつぶさに語る

編者積年の研究の裏打ちとなった
書簡の集大成！

明治25年河野鉄南宛晶子書簡から昭和17年6月晶子没年までの
未公開書簡1、300通を含む2、000余通を収録

2001年7月上旬刊行開始
《全巻予約募集中！》

八木書店

《与謝野寛晶子書簡集成》全4巻 ご購入のご案内

ISBN4-8406-9631-4（第１回配本第２巻）

総頁1,328頁、書簡収録総数2,037通

巻　数	配本予定	収録年	ページ数	収録書簡数
第１巻	第４回配本 2002年７月刊	明治25年～大正６年	320頁予定	書簡411通収録
第２巻	第１回配本 2001年７月刊	大正７年～昭和５年	368頁	書簡557通収録
第３巻	第２回配本 2002年１月刊	昭和６年～昭和10年	320頁予定	書簡534通収録
第４巻	第３回配本 2002年４月刊	昭和11年～昭和17年・補遺・索引他	320頁予定	書簡535通収録

本体価格：各巻9,800円（税別）／Ａ５判・上製本カバー装／平均332頁

ご注文は最寄りの書店、同封の葉書、またはホームページより小社へお申し込みください。
本集成は全４巻をお申し込みの方にのみお頒けいたします。分売のお申し込みはご容赦ください。

好評既刊

晶子研究第一人者が丹念に評釈
歌人必読の書
夢之華 全釈 逸見久美 著
●Ａ５判／312頁　本体価格：5,631円
明治39年９月５日、金尾文淵堂刊の第六歌集『夢之華』は明治38年から明治39年の307首を初出年代順に配列。

第二期収録作品中90％は単行本未収録
明治・大正・昭和三代の芸術家としての発言を初めて集成
徳田秋聲全集 第二期
●全12巻（予定）配本中！〔隔月配本（奇数月）〕
Ａ５判／平均450頁　各巻本体価格：9,800円
第19巻～第23巻―随筆・評論１～５／第24巻―入門書・俳句他／第25巻―合評・座談会／第26巻―翻訳／第27巻―年少者向け作品／第28巻～第30巻―小説拾遺１～３

発行 八木書店 出版部
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町３-８ ●TEL：03-3291-2961（営業）
03-3291-2969（編集） FAX：03-3291-2962 ●E-mail：pub@books-yagi.co.jp
●Web：http://www.books-yagi.co.jp/pub　オンライン書店など情報満載

取扱店

2001.11.4500 JP

刊行の辞

逸見久美

与謝野寛と晶子の研究のために書簡を集め始めてから五十余年が過ぎた。小林天眠氏（本名政治）の長女植田安也子様と共編で上梓した天眠文庫蔵『与謝野寛晶子書簡集』（昭和五十八年、八木書店刊）は小林天眠一家にあてたものであった。今回の書簡集成は、前著以外の書簡約二千通を収録、その内未発表は千三百通を超える膨大な量となった。改めて書簡を読み進めていくと、幅広い知名人との交流やその時代の事象や事件との関わり、これまで知られていなかった二人の内面や父性的母性的な愛情などが切実に伝わってくる。鉄幹を知る前の歌友河野鉄南、宅雁月、河井酔茗、また鉄幹の先妻林滝野あての晶子書簡、さらに教師仲間の女性達や滝野あての鉄幹書簡もある。中には晶子名であっても寛の手になるものも多く、それらには〔寛筆〕と注記し、生の資料の息吹を読者に感じ取ってもらえるよう配慮した。

全国に散在していた書簡を求めて、津々浦々をめぐり集めた書簡の中で、残念ながら許諾を得られず掲載できないものがあったが、書簡ご所蔵の多くの方々、及び寛・晶子の著作権継承者からの温情を賜った。これは編者にとって至上の幸運であり、与謝野研究への貢献にもなったことを嬉しく思う。

平成十三年五月

人を得ての成果

長谷川泉
森鷗外記念会理事長
評論家

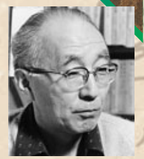
人を得たことには二つの意味がある。

まず、取り上げられた対象人の厖大で多数名人脈である。そして、内容的には文学史の裏面を構成する要素も含まれている。中には書簡そのものが、立派な歌になっているものもある。魅力的である。

その二は、控えめながら編者の学殖の大と、実証的な追求の姿勢が、読者を感動させる。「推定」とされている記述には、編者の、ひかえめながら、実際には苦心の追求の自信が含まれている。魅力的である。

以上の二点から、重ねて、人を得たことの成果をたたえる。

熱っぽい期待をこめて



佐伯彰一
文芸評論家

この頃やっとわが国でも「書簡集」に陽が当たり出した模様で、私など最も嬉しがっている一人だろうが、『与謝野寛晶子書簡集』ときかされると、まずドキリとして、やがて喜びがこみ上げてきた。作家、思想家また政治家まで書簡集が相ついで出る欧米でも、夫婦そろっての書簡集となると、めったにお目にかかれない。わが国の近代詩歌史上、格別目ざましく抜きん出たこの夫婦の『書簡集』が全四巻！　ときくと、何だかぞくぞくするような昂ぶりを抑え難い。しかも編者の逸見久美さんは『晶子歌集』の精細きわまる注釈など、この夫婦について全力投球の業績をつみ重ねて来られた。一体『書簡集』は、文字通りパーソナルなやりとりだから、カンどころを押えた注釈が不可欠というべきだが、その点この編者なら、万幅の信頼がおける。ともに激情的ともいいたい歌人夫婦間の機微にわたるポイントについて、色々と教示してもらえそうで、刊行がひたすら待ち遠しい。

交差する手紙

紅野謙介
日本大学教授

言葉の達人たちによって書かれた手紙がおもしろいのは当然だとしても、与謝野鉄幹と晶子という異なる個性の表現者の手紙が一堂に会するとなれば、ますます興味がわいてくる。明治から大正、昭和にかけて近代日本の文体は大きな変化をとげていった。その文体の通時的・共時的な多様性を一身に体現した表現者といえば、与謝野晶子をおいて他にない。歌人にして戦闘的な評論活動を行い、ささやかな日常からくみ上げられたエッセイを書き、典雅な和文体と流麗な口語文体をあやつり、美と文化、生活と政治について言葉を駆使したのが晶子である。大量の手紙は二人をとりまく知識人たちの交流圏をなによりも物語る。その資料的価値とともに、男性ジェンダーに生きた鉄幹とならんでふたりの手紙が交差しながら収載されたこの四巻は、小説ではないかたちで眺めることのできる近代書簡文の万華鏡的なアーカイブであろう。

本書の特色

- 編者が長年博捜した書簡総数2、037通を発送年月日順に配列した。
- 過去に活字化され公開された書簡の内、雑誌などに掲載された書簡、単行本収録の殆どの書簡（『天眠文庫蔵与謝野寛晶子書簡集』〈八木書店刊〉収録分は除く）を掲載した。
- 活字化された書簡も、可能な限り原本に当たって新たに校合した。
- 封筒、葉書の別など、書簡の書誌的事項を記した。
- 第四巻には、補遺・索引（人名、事項、短歌、発信地名、着信地名）を、各巻末には所在一覧を明示した。

主な宛先人

赤松克麿・芥川龍之介・麻田駒之助・有賀精・有島生馬・有島武郎・生田葵山・石川三四郎・石川啄木・糸原律子・井上苔溪・伊原青々園・岩野喜久代・内野辨子・内山英保・江口渙・円城寺貞子・岡田三郎助・翁久允・沖野岩三郎・落合直幸・中河与一・河井酔茗・河崎夏子・蒲原有明・北原白秋・木下杢太郎・窪田空穂・黒田鵬心・河野鉄南・小金井喜美子・後藤是山・小中村義象・小中村清矩・小林一三・近藤もよ子・斎藤茂吉・佐佐木信綱・佐藤春夫・嶋谷亮輔・白仁秋津・白鳥省吾・菅沼宗四郎・薄田泣菫・高村光雲・高安やす子・滝沢秋暁・宅雁月・田山花袋・透谷會事務所・徳富蘇峯・豊田実・中込旻・中村武羅夫・名和長臣・西村伊作・西村一平・丹羽安喜子・畑耕一・服部嘉香・馬場孤蝶・林滝野・原阿佐緒・平出修・平野万里・広江洒骨・深尾須磨子・細田源吉・本美鉄三・正宗敦夫・正宗得三郎・真下飛泉・三ケ島葭子・三島章道・三宅克己・三宅せい子・森鷗外・森繁夫・森潤三郎・森峰子・山下新太郎・山田知子・吉田精一・若月紫蘭・涌島長英・和気律次郎・渡辺湖畔など

年別収録書簡数（全2037通）

●第1巻（02年7月下旬刊行予定・全411通）

明治25年	（2通）	明治39年	（8通）
明治26年	（3通）	明治40年	（24通）
明治27年	（2通）	明治41年	（15通）
明治29年	（9通）	明治42年	（11通）
明治30年	（1通）	明治43年	（8通）
明治31年	（2通）	明治44年	（31通）
明治32年	（2通）	明治45年	（48通）
明治33年	（58通）	大正元年	（20通）
明治34年	（31通）	大正2年	（27通）
明治35年	（5通）	大正3年	（17通）
明治36年	（12通）	大正4年	（22通）
明治37年	（4通）	大正5年	（8通）
明治38年	（10通）	大正6年	（31通）

●第2巻（01年7月上旬刊行・全557通）

大正7年	（42通）	大正14年	（36通）
大正8年	（37通）	大正15年	（26通）
大正9年	（52通）	昭和2年	（22通）
大正10年	（50通）	昭和3年	（35通）
大正11年	（68通）	昭和4年	（47通）
大正12年	（51通）	昭和5年	（61通）
大正13年	（30通）		

●第3巻（02年1月下旬刊行予定・全534通）

昭和6年	（79通）	昭和9年	（135通）
昭和7年	（93通）	昭和10年	（129通）
昭和8年	（98通）		

●第4巻（02年4月下旬刊行予定・全535通）

昭和11年	（134通）	昭和15年	（24通）
昭和12年	（96通）	昭和16年	（1通）
昭和13年	（82通）	昭和17年	（4通）
昭和14年	（57通）		

昭和年不明	（16通）
年月日不明	（121通）

本文組見本（第1回配本第2巻より）

95　大正9年5月10日　芥川龍之介宛晶子書簡

〔毛筆和封筒　毛筆巻紙　未採寸〕

㊨市外、田端、四三五　芥川龍之介　ミもとに　消印　未確認

㊧麹町ふじみ町五―九　与謝野晶子　五月十日

おん文拝ー参候。私も昨日三田文学を手にいたし竹友様の御書きなされし旅の記をよみ候てあなた様にすまぬ心地いたし候。わびしく思ひ候。

時代錯誤などといふかの君のとりなしざまをいかにぞやと思ふことふかく候。

かの夜半の話はむしのたれ衣のこと御とひなされ候ひしに私もよく知り申さず、鎌倉期のもの、やうなこ、ちいたされ候上、源氏の玉かづらの初瀬の山を登りゆく姿につぼ装束に着こめてとあるやうにて候ひしなどと申ししに候。　しかも私はあなた様の何れの御作中の人のむしたれ衣か、ることありとも覚え居らざりしことに候。何とかかの君申されし時、私太田正雄氏が谷崎氏の法成寺物語につきて申されしやうのことをあなた様の王朝をかゝせたまへる小説をよみてをりふし思ふことを申候。

それを何処とさして申し上げ候ことはかの脚本をさしてそこに、小生ハ少しく大兄の御心中を想ひました。併し変な事ハ出だすときハ、大兄の御心中を想ひました。

とを思はずにゐられまなんだ。（同情など云云）

また鵠沼の宿帳でお深い友愛を表はしてゐるのを拝見して何かなつ妻も大兄の御心中を想ひました。

乗てられてゐる私共を云ふことがあるとして

筋の兄であり姉であるとを思はずにゐられまなんだ。（同情など云云）

思ひます。

こと申し候よりもはるかに〳〵むつかしきことにおもはれ候。変りたる色にてかゝれし極楽のまんだらとやらに私はなほかの時代を御かき遊ばされし御作物に合掌いたし居り候。これはまことにて候。

そのうちおひまもおはし候ハゞ御入りのほどまち上げ候。

十日朝　晶子

芥川様　ミもとに

63　大正9年5月

大正11年8月　146

219　大正11年8月13日　佐藤春夫宛寛書簡

〔毛筆和封筒　毛筆巻紙　未採寸〕

㊨伊豆國青羽根局区船原温泉　鈴木方　佐藤春夫様　消印　未確認

㊧〔印刷〕東京市麹町区富士見町五丁目九番地　與謝野方

「明星」発行所　電話九段二一一〇番　八月十三日

謹啓

四萬温泉へ往復七日にて入浴し、晶子と共に歸りますと、東京ハ例にないほどの酷暑です。之に悩まされながら原稿を整理し、平野君と「明星」の編輯をしてゐると、誰も暑いので、本月ハ原稿を書く人が尠く、自分で下手な飜訳でもしようかと思つて

摩耶の峯抱く心となる時も背ける時も山おろし吹く　晶子